

数学コラム(13)

## 二千円紙幣

西山豊

沖縄サミットと西暦 2000 年 (ミレニアム) を記念して小渕首相の発案で二千円紙幣が発行されて久しい。表が守礼門、裏が源氏物語のデザインで当時は話題をよんだが、期待とは裏腹に二千円紙幣はほとんど流通しなくなってしまった。アメリカでは 20 ドル紙幣が、イギリスでは 20 ポンド紙幣がごく普通に流通しているが、日本では二千円紙幣をほとんど見かけない。二千円紙幣が流通しない理由として、自動販売機が対応していない、レジスターにスペースがないなどの理由があげられたが、今日ではかなり改善されている。それにもかかわらず流通しないのは何か理由があるのだろうか。

現在、日本で使用されている通貨は、硬貨が 1 円、5 円、10 円、50 円、100 円、500 円の 6 種類と、紙幣が 1000 円、2000 円、5000 円、10000 円の 4 種類である。ほとんどが「1」と「5」を単位としたもので、「2」を単位としたものは 2000 円紙幣だけである。日本の通貨史上で「2」を単位としたものが皆無であったわけではなく、20 円券 (1917 年の菅原道真, 1931 年の藤原鎌足) や 200 円券 (1927 年の武内宿禰, 1942 年の藤原鎌足) が発行されたこともあるが、戦後でははじめてのことである。

現在、イギリスで使用されている通貨は、硬貨が 1p, 2p, 5p, 10p, 20p, 50p, 1 ポンド, 2 ポンドの 8 種類、紙幣が 5 ポンド, 10 ポンド, 20 ポンド, 50 ポンドの 4 種類である。p はペンスという単位で、1 ポンド=100p である。日本とイギリスの金種を比べると、硬貨がイギリスの方が 3 種類多くて使いにくい紙幣は 4 種類で同じである。50 ポンド紙幣はほとんど見ることがなく、10 ポンド紙幣と 20 ポンド

紙幣がよく使われている。ATM で 300 ポンドを引き出すと 20 ポンド紙幣が 10 枚と 10 ポンド紙幣が 10 枚出てくる。100 ポンドの支払いには 20 ポンド紙幣を 5 枚、50 ポンドの支払いには 20 ポンド紙幣を 2 枚と 10 ポンド紙幣を 1 枚でおこなっている。これで別に不自由はない。5 ポンド紙幣はあまり見かけない。よく流通している紙幣の最高金種は 20 ポンド紙幣であり、硬貨の最高金種は 2 ポンド硬貨である。

ケンブリッジからロンドンまでは往復料金が 18 ポンドで片道料金が 17.9 ポンドである。これは間違いではないかと思われるが、このような料金体系はイギリス国有鉄道の基本である。日本の場合は片道料金の 2 倍が往復料金であるが、イギリスは往復が前提で片道料金という意味が希薄である。ホテルやゲストハウスの宿泊は 2 人部屋が基本で 1 人部屋はほとんどなく、1 人で泊まる場合も 2 人部屋の料金を支払うことになる。「ぶらり一人旅」というのはなく、かならずペアで旅行するという習慣がある。3 人の旅行というのも少なく 2 人、4 人というように行動する場合は偶数に丸める傾向がある。

日本での結婚式のご祝儀の金額をインターネットで調べてみると、友人や同僚は 2 万円か 3 万円、上司や恩師は 3 万円か 5 万円、親族は 5 万円か 10 万円が相場である。ここで注目すべきは、「割りきれ数字は縁起が悪い」ということで、2 万円や 4 万円をあえて避けていることである。どうしても 2 万円にする場合は、1 万円紙幣 1 枚と 5 千円紙幣 2 枚の合計 3 枚という西洋人には理解されにくい奇妙な方法をとる。香典の相場は、あるデータによると 3 千円、5 千円、1 万円に相場が集中している。この場合も数字に注目すると、偶数が避けられている。このように日本と西洋には奇数の文化と偶数の文化の違いが背景にあり、日本人が二千円紙幣を受け入れるにはまだまだ先のようなのである。

(にしやまゆたか／大阪経済大学)